

第3回大田区男女共同参画推進区民会議 議事録（要旨）

日 時：令和7年10月2日（木）午後3時から午後5時

会 場：本庁舎 11階 第五・第六委員会室

参加委員：萩原委員（会長）、小山委員（副会長）、高瀬委員、江川委員、岩下委員、望月委員、鷺家委員、長村委員、神田委員、金田委員、古澤委員、村尾委員

事務局：総務部長、総務部副参事、人権・男女平等推進課長、人権・男女平等推進担当係長、人権・男女平等推進担当主査

関係各課：防災危機管理課防災計画担当課長、地域力推進課区民協働・多文化共生担当課長、蒲田生活福祉課自立支援促進担当課長、蒲田生活福祉課自立支援促進担当係長、蒲田生活福祉課自立支援促進担当係員、健康づくり課長、子育て支援課長、子育て支援課こども家庭担当課長、子ども家庭支援センター所長、保育サービス課長、指導課長

資 料：・資料1 第9期大田区男女共同参画推進プランの素案
・資料2 第9期大田区男女共同参画推進プランの体系案
・資料3 第9期大田区男女共同参画推進プラン関連事業

- 1 開会
- 2 資料確認
- 3 会長あいさつ

皆さんこんにちは。今回は第9期プラン素案の再審議になります。前回いただいた様々なご意見を反映してくださっていると思いますが、パブリックコメントに向けて今回もご意見を是非賜りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

- 4 関係各課紹介
- 5 議事

（1）第9期大田区男女共同参画推進プランの素案について

事務局より、説明。

- ・第8期プランでは体系に「地域との協働」が含まれているが、今回は第5章に移動してわかりづらくなっているため、体系に残していただきたい。また、男女平等推進センターについても、大田区の取組のアピールという観点から同様に残してほしい。（古澤委員）

→地域と協働することは当然と考え、第5章という全体にかかる部分に移動しており、男女平等推進センターについてもそちらで詳細に説明している。体系への追加についてはご意見を聞きながら検討していきたい。（事務局）

- ・災害対応と避難所の運営は男性中心で、男女共同参画の視点の実感がない。また避難所ではこどもの被害もある。特に女子。この計画の中でそういった視点を踏まえた取組をどのように実施していくのか。（金田委員）

→理想はすべての活動拠点で男女共同参画の視点に立った取組が行われることだが、現状は拠点によってまちまちである。一番望ましいのは防災に関する資格を持った女性を配置することであるため、計画的に人材を増やし、各防災拠点に配置することを求めている。現在、防災課で避難所共通のマニュアル整備を検討しており、それをベースに各拠点で独自性を出していただくことを狙いとしている。部会、防災会議への女性登用、マニュアル作成といった長い視点で取組を進めていきたい。（防災計画担当課長）

→内閣府で作成している防災ガイドラインを踏まえて是非作成していただきたい。（萩原会長）

- ・以前、子育てに関する相談を受け付けるベテラン保護者の募集対象が女性のみだった。計画の中に男性の子育て参加に関する取組が含まれていることから、そのあたりも変化したのか知りたい。（金田委員）

→計画においては父親支援セミナーや男性向け講座を盛り込んでいる。最近の男性は積極的で、産後パパ育休の創設によって育休を取る男性が増えた上に、その時間を使って講座に参加する男性が増えて喜ばしいと感じている。（事務局）

→これまでは第一子出産を控えた妊婦の出産準備教室を開催してきたが、最近は父親も同席して共に子育てをするための準備をしている風潮がある。夫婦一緒に子育てを進めていただきたいため、講座の開催日を休日にするなど環境整備を行っている。初めて出産するは特に身体的な不安が大きいため、アドバイスする側は助産師含めて女性がほとんどとなっているが、今後は男女ともに生み育てていく風潮が強まることから、父親の声も聴きながら体制づくりを進めたい。（健康づくり課長）

- ・「男女共同参画」であるべきなのに男性に変化がない風潮があるが、共同で子育てをしていく意識が根付いていくと良い。（金田委員）
- ・男性向け講座が増え参加者も増えてきているが、夫婦で共に参加する講座のほうに参加しやすく、実際にそうした講座も増えてきている。仕事と育児の両立で男性が疲弊しているという事例も出てきており、男性と女性二人で育てていくという視点がそろそろ強く打ち出されても良いのではないかな。（古澤委員）
- ・女性は家事・育児に加えて働くものという新性別役割分業といった新しい問題も含めて考えていく必要がある。（萩原会長）
- ・コラムが入ったことによってわかりやすくなった。（長村委員）
- ・42頁のSOG Iについてももう少し説明が欲しい。（望月委員）

→第8期プランでは図も挿入されていたため、今回も掲載するか検討したい。（事務局）

→41頁に「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」について記載いただいているが、図や絵を入れていただけるとより分かりやすくなると思う。（萩原会長）

- ・言葉に意味合いがあるはずなので、単に国にならうのではなく、説明がもう少し欲しい。ジェンダーと男女共同参画の言葉の意味は同じらしいが、素人からは取り方が異なるように感じられる。（高瀬委員）

→男女共同参画社会基本法の成立時に男女共同参画が行政用語となった。英訳はジェンダー平等となるため、「ジェンダーの視点」、「ジェンダー平等」で使い分けてみてはどうか。（萩原会長）

→ご意見を踏まえて検討したい。（事務局）

- ・男女平等推進センターについては詳しく掲載いただいているとわかった。大田区は地域との協働を大切にできており、男女共同参画を地域に根差したものにするためにすべてに絡んでくるからこそ、やはり地域との協働を体系に組み込んでいただきたい。（古澤委員）

→地域との協働を削除したのではなく、すべての事業に関わるからこそあえて単独の項目にしておらず、第5章に移動して網羅的に見せている。今後見せ方を検討していきたい。（事務局）

→ガイドラインでも触れられているため、男女平等推進センターの役割に防災分野を含めていただきたい。地域との関わりが全体に係るということは視点の主流化だと思うが、一方で見えにくくなるという懸念もあるため、見せ方を検討していきたい。（萩原会長）

- ・LGBTQとSOG Iの現状値と目標値をどのように決めたのか教えてほしい。

また、64 頁のセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツの具体的な啓発方法についても教えていただきたい。（岩下委員）

→LGBTQについては法案ができた際に社会的関心の高まりとともに認知度が高まった。しかし、SNS等で誤情報が拡散されたり未だ当事者への偏見があったりするため、正しく言葉の意味を理解してもらうために、急激な伸びではなく現実的な数値として目標値を設定している。SOGIは区報等での啓発を行う予定だが、LGBTQに比べて認知度が低く、現実的に考えて30%と設定している。セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについてはセミナー等を企画することによって周知啓発を進めることを想定している。（事務局）

・全体のつくりやコラムがわかりやすいと感じた。56 頁の基本目標Ⅲについて、表を見たときに企業等と比較して高いのかわかりにくいのでは。（鷺家委員）

→該当の表では 23 区との比較を行っており、ひとつの目安としている。一般企業の女性登用に関する具体的な数値は手元になく確認できないが、大田区に多い中小企業の数値は特に把握が難しく、比較が困難だと考えている。（事務局）

・全国との比較を入れるとより分かりやすいのではないか。（萩原会長）

・大田区は中小企業が多く地域密着型の印象があるため、地域との協働を基本理念に掲げてはどうか。（村尾委員）

→事務局で検討したい。（事務局）

・社会保険労務士として事業主の方と関わるが多いため、ワーク・ライフ・バランスの情報提供等で協力できると考えている。事業主の方もワーク・ライフ・バランス推進の重要性は理解しているが、人手不足で手が回らないという現状がみられるため、区民だけでなく事業主に対する支援があっても良いのではないか。（神田委員）

・子育てをする父親を最近よく見かけるため時代が変わったと感じるとともに、一方で、60 代の人で定年退職をした夫が家庭に入ったことによって、小言による言葉の暴力や自由時間を奪われるケースを見てきた。町会の手伝いをしていても男尊女卑を感じる部分があり、地域における男女平等の実現にはまだまだ時間がかかると感じる。（江川委員）

・孤独・孤立対策推進法の成立時、65 歳以上男性の自立が課題として挙げられていた。家庭科の男女共修が始まった世代は男女ともにワーク・ライフ・バランスを進めているため、ある一定の世代が若い世代の邪魔をしないということも重要である。女性が地域社会で活躍するために、今いただいたご意見のような実感が大きな課題であるため、今後も考えていきたい。（萩原会長）

・横文字が多いため、一般の人でもわかる注釈をつけていただきたい。連合会の会長は 19 人中女性が 2 人のみで、町会でみても男性が多くなっており、男性が行うものという意識も残っていると感じる。実感としてまとめるのは女性のほうが上手く立ち回れるが、なかなか難しいと感じている。（小山委員）

(2) 今後のスケジュール（予定）

事務局より、今後の計画策定スケジュールについて説明を行った。

(3) その他

事務局より、次回会議の開催案内について説明を行った。